

エ チ ケ ッ ト

(ゴルフ規則第1章)

◎コース上の礼儀

安全の確認

プレーヤーは、ストロークもしくは練習スイングを行う前に、クラブが当たるような身近な所、または球、石、小枝などがストロークもしくは練習スイングを行なったために飛んでいって当たるおそれのある場所に、誰も人がいないことをよく確かめるべきである。

他のプレーヤーに対する配慮

相手または同伴競技者は、オナーを得たプレーヤーに先にプレーさせるべきである。

プレーヤーが球にアドレスまたはストロークする間、他の者は、動いたり話をしたり、球もしくはホルの近くまたは真後ろに立つべきでない。

プレーヤーは、すべての人のために迅速にプレーすべきである。

プレーヤーは、前方の組が球のとどく範囲外に進むまで、プレーをしてはならない。

球を捜している組は、球がすぐには見つかりそうにない場合、速やかに後続の組にパスするよう合図すべきである（パスの合図は3分間捜した後にしないこと）。

また、パスした後続の組が球のとどく範囲外に出るまでは、プレーしてはならない。

プレーヤーは、1ホルのプレーが終了次第、速やかにパッティング・グリーンから離れなければならない。

◎コース上の先行権

特に定めのない場合、2球でプレーする組は、3球または4球でプレーする組に優先権をもち、これらの組をパスする権利を与えられるべきである。

単独のプレーヤーは、なんらの権利も持たず、いかなる組にも先行権を与えるべきである。

1ラウンド全部をプレーする組は、1ラウンド全部をプレーしない組をパスする権利を持っている。

コース上での進行が遅れ、前の組との間に完全に1ホル以上の間隔ができた場合は、後続の組をパスさせるべきである。

◎コースの保護

バンカー内の凹みおよび足跡

プレーヤーは、バンカーを出る前に、そこで作った凹みおよび足跡を全部入念に直すべきである。

ディボットを元の位置に戻すこと：パッティング・グリーン上のボール・マークおよびスパイクによる損傷の修理

プレーヤーは、スルー・ザ・グリーンで切り取ったり飛ばした芝生（ディボット）を直ちに元の位置に戻して踏みつけておき、また球により作られたパッティング・グリーン上の損傷も必ず入念に修理しておくべきである。

旗竿、バッグなどによるパッティング・グリーンの損傷

プレーヤーは、バッグ、旗竿などを置くとき、パッティング・グリーンを傷つけないように注意し、またプレーヤーもそのキャディも、ホルの近くに立って旗竿を抜きさししたり、球をホルから取り出すときに、ホルを傷めないようにすべきである。

旗竿は、パッティング・グリーンを離れる前に、ホルの中に戻しておかなければならない。プレーヤーは、パターにもたれてパッティング・グリーンを傷めてはならない。特にホルから球を取り出すときに、この点を留意すべきである。

ゴルフカート

プレーヤーは、ゴルフカートの運転に関する注意事項を厳守しなければならない。

練習スイングによる損傷

プレーヤーは、練習スイングを行なうとき、ディボットを取ってコース（特にティイング・グラウンド）を傷つけることのないように注意すべきである。

競 技 規 則

競技の運営及び本則の運用に関する一切の事項は競技委員（以下委員という）が決定する。

1、クラブ選手権競技、シニア選手権競技、グランドシニア選手権競技を 除くすべての競技はハンディキャップの下に行う。

2、ハンディキャップに関すること。

1) A、B 2 クラスに区分する。

(この区分は都合により変更することがある)

Aクラス 0 1 6. 9

Bクラス 1 7. 0 3 2. 0

(3 2. 1 以上のものは3 2. 0 として参加できる)

2) 予選を伴う競技の出場資格はハンディキャップ 2 7. 0 までとする。(但し、クラブ選手権競技の出場資格は、ハンディキャップ 1 6. 9 まで又、グランドシニア選手権競技は3 6. 0 までとする。) 2 7. 1 以上の者が 2 7. 0 として出場することが出来る場合は競技日程表によって定める。但し、スクラッチで行う競技の場合は別に資格を定める。

3) マッチプレーの場合は双方のハンディキャップの差は、1 0 0 %とする。

アゲンストパー競技の場合も各自のハンディキャップの 1 0 0 %とする。

この場合の各自のハンディキャップは小数点以下第 1 位を四捨五入した数とする。

4) 他の倶楽部のハンディキャップに変更があった場合は直ちにハンディキャップ委員に通報し、新ハンディキャップの裁定を受けなければならない。これを怠った場合は競技入賞資格を失う。

5) 競技に参加するプレーヤーは競技申込締切り日の 6 ヶ月以内に 3 枚以上(うち 2 枚は当クラブのカード)アテストされたカードをハンディキャップ委員に提出しなければならない。但し、特別の事情により競技委員の承認を得た場合はこの限りでない。

6) ハンディキャップを要求するプレーヤーは、溯ること 2 年間で 10 枚以上のアテストされたカードをハンディキャップ委員会に提出しなければならない。

3、スタートに関すること。

1) 日程表に◎印のある競技の参加申込は原則として 1 0 日前までとし、締切時以後の申込は一切認めない。この競技の組合せは委員が決定し、スタート時刻と共に申込者に通知する。

2) ◎印以外の競技のスタートの締切時刻は午前 1 1 時とし、午前 1 0 時までに参加申込をしなければならない。

3) キャンセル料の発生について。

競技開催日前日の正午以降のキャンセルについては、開催競技の参加料をキャンセル料として申し受ける。

但し相応の理由を伴うもので、委員が認めたものであれば免除する。

4、スロープレーに対するペナルティー。

前の組に遅れる事 20 分が経過した場合、1 回目は注意とし、2 回目となった場合は罰打 2 打付加とする。

5、競技に関すること。

1) 競技参加者はスタート前に所定の参加申込帳に署名することを要する。

署名のない時は失格とする。所定時刻までにスタートのティに到着しない者は失格とする。

(スタート時刻 1 0 分前)

2) ストローク・プレー

(イ) 組合せは競技参加者だけをもってすることを原則とする。但し、委員が特に認めた場合はこの限りではない。

(ロ) ストロークプレーによって順位を判定する競技については、カートナビシステムにスコアを入力することでスコアカード提出に代える。入力されたスコアはマーカー・同伴プレーヤーが相互に確認し、登録ボタンによってカード提出とする。入力がされていないプレーヤーは失格とする。

(ハ) 競技参加者が 1 6 名(グランドシニア選手権競技、敬老の日杯の 7 0 才以上組、ならびにラストコール杯本年優勝者組の場合は 8 名)に満たない場合はその競技は不成立とする。

但し、クラブ選手権競技の場合、3 2 名に満たないときは、セカンドフライトは不成立とする。又、グランドシニア選手権競技の場合、1 6 名に満たないときは、セカンドフライトは不成立とし、3 2 名に満たないときは、一回戦を省略し、準決勝、決勝の競技予定日を各々、一週間づつくりあげる。

(ニ) タイとなったときは下記によって勝負を決定する。

最後にプレーした I N コース 9 ホール(1 0 番～1 8 番)のマッチングスコアカード方式により順位を決定する。なお 9 ホールで決着がつかない場合には 6 ホール(1 3 番～1 8 番)のマッチング、それでも決しない場合は 3 ホール(1 6 番～1 8 番)のマッチングとするが、なお決着がつかない場合は 1 8 番のスコアにより決する。以降ホールを遡る。

3) マッチプレー

(イ) 競技は予め定められた日時にこれを行い、再競技の必要がある場合は前競技後 1 週間以内にこれを行う。但し定められた日に競技を行うことが出来ない時には相手方の承諾があり、且つ委員がこれを承認した場合に限りこれを変更することができる。

(ロ) ハンディキャップの有無にかかわらず、「タイ」となったときは何れか1 u pするまで試合を続行する。
このプレーオフは前ラウンドと同じホールから始め、ハンディキャップのあるホールも前ラウンドと同じとする。

- 4) バックティを使用する競技に参加する「80歳」以上の男性参加者が、使用するティはレギュラーティとする。
バックティを使用する競技に参加する女性メンバーはレギュラーティを使用する。
 - 5) 競技参加者は、カーナビの表示画面から得られる情報を競技に使用できることとする。カーナビの画面情報はキャディのアドバイスと同一のものとする。
 - 6) プレーオフの日時は委員が之を決定する。
又、その時の状況により委員はプレーオフのホール数を減少することがある。
 - 7) 競技参加者は必ずスコアカードをリターンすること。
N. Rを連続2回以上続けたときはその直後のクラブ競技の入賞を認めない。
但し、委員が已むを得ないと認めた場合はその限りではない。
- 6、本則及びローカルルール以外は全てJ. G. Aのルールによる。

附 則

1. 委員会は必要に応じ臨時ローカル・ルールを規定する。詳細はその都度クラブ内に掲示する。
2. ハンディキャップをもたない者は、競技に参加できない。
3. 競技に参加しない組は競技者のスタート前か、競技者全部のスタート後にのみスタートすることができる。
※印の競技の組には先行権を与えることを原則とする。
4. 9ホール終了後プレーの進行を妨げない限りクラブハウスに立寄ることができる。

ローカル・ルールス

1. アウト・オブ・バウンズの境界は白杭、修理地の限界は青杭と白線をもって標示する。ペナルティエリアは、赤杭または赤線にて標示する。
2. 樹木の巻物施設はコースと不可分の部分とする。
3. 特定地域の境界を示す杭およびホールまでの距離を示す杭は「動かせない障害物」である。公式競技においては、縞杭は動かせない人工障害物とし、スタンスやスイングの妨げとなれば、規則16-1aを適用できる。防球ネットが、インバウンズ側にある場合は「動かせない障害物」であり無罰で救済を受けられる。防球ネットが飛球線上ある場合は、無罰で救済を受けられる。
4. 予備グリーンに球が乗り、スタンスがかかるときは、グリーン外（カラーを含む）の場所にニアレストポイントを決して救済しなければならない。
5. ラウンド中、プレーを終わったホールのグリーンやその近くで練習ストロークを行ってはならない。
6. 特設ティ設置ホールにおいて第1打が「O・B」のときは、前方特設ティより第4打としてプレーすることができる。但し公式競技を除く。
7. 縞杭を越えた球は、境界線を最後に越えた地点より2クラブレンジ以内にドロップすること。縞杭を越えた球を捜さなくても、プレーヤーは別の球をイン・プレーにすることができる。罰打は何れかの場合も1打付加。但し公式競技を除く。
8. 電磁誘導カート用のコンクリート軌道は、全幅をもってカート道路とみなす。また、「コンクリート軌道の間にある場合、競技者はゴルフ規則16-1aの救済を受けなければならない。
9. カート道路に接している側溝、排水口のある箇所は「一体」の動かせない障害物とする。
10. バンカーに入った打球がバンカー内の排水口に接するか、スイングやスタンスの区域に掛かる場合はニアレストポイントから1クラブレンジの範囲内にプレース出来る。
11. アウトオブバウンズの球または紛失球は、その基点とフェアウェイの基点を定め、救済エリアから2打罰を加えプレーできる。このローカルルールはクラブ競技にも適用する。
12. 本ローカルルール以外はすべてJ G Aゴルフ規則による。